

元培科技大学(台湾)国際交流サマースクール 報告書

2014 Yuanpei University Summer School for Chinese Learning and Healthcare
Industry Site Visit. Special program for Kyoto College of Medical Science

医療科学部 放射線技術学科 3 回生 熊野 雄斗

出発日



台湾へ行く大きな気持ちとは裏腹に、台風で空港に足止めされた初日の僕たち。。。一人ひとりが大きな思いや不安を持ちながら飛行機の出発を待ちわびていた。

僕は海外に憧れを抱いていた。世界は広いのに日本という小さな国で20年間も生きていた僕は他の国で生まれ育った人が、どのような考えを持ち、生きていたのかが知りたくなった。僕はそんなことを考えながら、14人で飛行機の到着を待った。

無事に飛行機が飛び、異国の台湾へ。

台湾に到着すると多くの元培科技大学の学生さんが歓迎してくださった。この時、僕の気持ちは不安な気持ちでいっぱいだった。そして、この日は疲れたのか、ホテルにつくとすぐに眠りについた。

この写真は月曜日のお昼だ。さすがにこの人数で食べることのできる量ではない食べ物が出てきた。日本では食べ残しがもったいないと考えられているが、それが常識ではない。自分の視野の狭さを実感した。しかし、これで僕はこれから未知の事をたくさん知ることができると期待が高まった1日だった。

月曜日



火曜日



この日はたくさん行動した。

午前中に病院へ行き、台湾の医療を見学した。日本の医療の方が最先端であると感じた。その理由としては医療機器の普及が日本の医療機器より劣っているためだ。しかし、台湾にある医療機器でできる、最高の医療とチーム医療を感じることができた。

午後は国立故宮博物館、台湾で有名な夜市に行った。ここでも僕の想像を超えていた。町が毎日、祭りかのようににぎわいだったからだ。いろんなご飯を食べ、日本人がおいしいと感じる食べ物や、台湾人がおいしいと感じる食べ物の違いを感じることができた。

水曜日



太極拳。これはとてつもなく疲れた。

たった8個の型だけなのに4、5時間かけて、先生に教わった。そしてこの太極拳は8個の動作を丁寧にきちんとすると15分くらいかかる。大変なことだが、毎日この太極拳を繰り返すことによって、健康が保たれるのだ。実際にあちこちの筋肉を使うため、本当につかれ、翌日には筋肉痛になった。

さらに、この太極拳の後に晩御飯を食べ、みんなでバドミントンや、バスケ、卓球などのスポーツをしたため、くたくたな1日だった。

木曜日



猫村、黄金博物館、千と千尋の神隠しで有名な九份へ。太極拳した翌日にこのしんどさ。と思いきや楽しすぎて、しんどさも忘れるくらいの充実した1日だった。たくさんの元培科技大学の学生さんとも仲良くなり、言語が異なっても、お互いが分かり合うまで話したり、笑いあい、共に勉強になった。言葉が通じていなくても相手の表情や、仕草、そのようなことから相手の意思をくみ取り、理解しあうことで、コミュニケーションをとりおしゃべりをした。

1番楽しかった日。しかし、寂しくもなる1日でもあった。

1週間、他大学の学生さんと台湾にくる時期が遅かったのもあり、仲良くなる時間が短かった。しかし、最後のパーティーでみんなが1つになれた。日本人も、台湾人も。やはり世界共通で1番最高なものは『笑顔』だ。1人が笑えば周りの人も楽しくなり、自然と笑顔に。歌を歌ったり、ダンスをしたり、日本の食べ物、台湾の食べ物を披露したり、みんながみんな楽しんだ。



ダンスといえば、僕たちは少しアクシデントが起きた。他大学の学生さんとダンスの曲がかぶってしまったことだ。僕たちが悩んでいるときに勇気を与えてくださったのが、今回のサマースクールに来てくださった、石垣先生と富高先生だ。先生方は僕たちの背中を押してくださった。悩んで、悩んで、困って、困って、自信のない僕たちの背中を押し、僕たちに大きな自信を与えてくれた。子供な僕たちは、先生方に自信をもらったおかげで最高の仕上がりにした。僕たちは先生方の存在が心のどこかで大きいことを認識し、頼っていた。

パーティーが終わるにつれてパーティーに参加している人は涙を流した。たった1週間、2週間の出来事なのに別れ惜しくなった。涙を流し、抱きしめあった。再び会うこと誓った。

パーティーが終わっても台湾に帰るわけではない。翌日に飛行機が飛び立つため、みんなで夜を明かした。何を話したか、覚えていない。しかし、話すことを止めず、朝までみんなで話し、笑った。別れを惜しむのではなく、今、僕たちが残された時間を1秒1秒大切に語り合った。



土曜日



元培科技大学の学生さんが最後は見送り。
たくさんの思い出を持ち、最後は笑顔で
お別れを。またどこかで会えることを
心のどこかに秘めて。こうして僕らのたった
5日間のサマースクールが終了し、台湾を
あとにした。



今回のサマースクールを通じて、先生の指導の下、京都医療科学大学の同期、後輩とのチームワークが高まった。台湾に行く前は不安の気持ちもあったが、その不安はいつしかなくなっていた。見るもの、食べるもの、感じたこと、すべてが新鮮で僕の常識を超えていました。日本での『当たり前』が世界にとってはまったく通用しない『当たり前』で、それは、今まで1つの世界で生きてきた僕にとって、他の世界を見ることができ、大きな視野を身につけることができる発見となった。

コミュニケーションについても新しいことが分かった。台湾に行く前まではコミュニケーションは『言語』だと思っていたが、それは全くの別物で、『言語』はコミュニケーションをするためのツールでしかなく、本来のコミュニケーションは相手の表情や、行動、動作で自分の意思を伝えるものなんだと感じた。人生において大きな経験をできた今年の夏は、宝物だ。この経験を生かし、もっと視野を広く持ち、熊野雄斗を育てていきたい。